

マキノ病院ニュース

第123号

— 令和4年8月1日発行 —

マキノ病院リハビリテーション科について

リハビリテーション科 課長 杉原 治

私が平成22年にマキノ病院に採用された当時は、理学療法士6名、作業療法士2名、計8名のリハビリスタッフであったように記憶しています。あれから12年が経過した現在では新たに言語聴覚士も加わり、理学療法士19名、作業療法士10名、言語聴覚士2名、助手を含めますと総勢36名となりました。

当院リハビリテーション科は、急性期（発症日～2週程度）から回復期（発症後2週～3ヵ月程度）そして生活期（発症後3～6ヵ月以降）に至るまでの一連の時期を幅広く対応させていただけることが特徴の一つであり、各時期効果的にリハビリテーションを提供できるよう、入院・外来・デイケア（通所

リハビリテーション）・訪問リハビリ部門を幅広く有しており、また昨年より高島市主導の介護予防・日常生活支援総合事業の委託を受け、通所型サービスク短期集中予防サービスクや地域リハビリテーション活動支援事業にも取り組み、より一層リハビリテーションの充実に努めています。

高島市の推計によりますと、今後高齢者人口（65歳以上）は2025（令和7）年までに増加が続き、2045（令和27）年には生産年齢人口を上回るとされています。一方総人口は2000（平成12）年の5万5千人をピークに人口減少が続く、2065（令和47）年は2万1千人になるとされています。このような

な予測のもと、今後、当院リハビリテーション科が地域の中で皆様とともに歩み続けられるために、次の取り組みに注力してまいります。

一つ目は、専門職業人（プロ）として理学療法・作業療法・言語療法の専門性を向上させるため、外部から専任講師を積極的に招き、幅広い知識・技術を習得・駆使し、皆様に最適なリハビリがご提供できるように努めます。技術は日々進歩しています。有益なリハビリで皆様のご満足につながります。二つ目には、接遇の向上を目指します。すべての療法師が礼節を重んじ、言葉遣い・態度に十分留意して、安心・安全に納得してリハビリがお受けいただける環境を整備します。患者様・ご家族目線に立ち丁寧な対応を心がけま

す。三つ目に、優秀な人材育成に尽力します。現在も、実習指定病院として、多くのリハビリ大学・専門学校から、大勢の実習生をお受け入れし、当院の職場を十分にご理解いただいたうえで、毎年多数ご就職いただいています。将来この地域の医療を支える人材を育て定着させることが、私たちの責務だと考えています。随時、職場見学も実施しておりますので、お気軽にお声かけくださいと幸いです。

私たちがリハビリテーション科は、成長半ばですが、チーム一丸（ワンチーム）となつて、皆様をお支えする所存です。今後ともご理解ご支援いただきましたことより深くお願いいたします。

診療科のご案内
 内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科・総合診療科
 肛門外科・泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
 【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
 平日 8:30～12:00 16:40～19:00 土曜日 8:30～12:00
 滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
 ホームページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

ドクターコーナー



CHOSHINKI

痔核は3人に1人が痔持ちと言われているくらい頻度の高い病気です。しかしながら羞恥心などから病院を受診するのをためらっている患者さんが数多くいらっしゃいます。あ

る病院で行ったアンケート調査では、自分が痔と自覚してから受診するまでの期間が平均して7年間と

く、内痔核に関してのお話をします。肛門内にはクッションと呼ばれる粘膜の膨らみが存在し、その中には静脈が網の目状になった部分があります。排便時のいきみなどで静脈がこぶ状になる事により、クッションが

でも自然に肛門内に戻りますが、進行すると指で押して肛門内に戻さないといけない状態となり、更に進行すると戻すことが不可能な状態に移行します。脱出が進行すると痛みを感じる外の部分まで腫れる

内外痔核と呼ばれる状態となる事

痔核（いぼ痔）の治療について

外科 西村 彰一

なつており、病院に行かず我慢をしている患者さんがいかに多いかを裏付けるデータです。

痔核には、肛門の少し奥にできる内痔核と肛門付近にできる外痔核があります。頻度的には内痔核で悩んでいる患者さんの数が圧倒的に多

なつており、病院に行かず我慢をしている患者さんがいかに多いかを裏付けるデータです。

痔核には、肛門の少し奥にできる内痔核と肛門付近にできる外痔核があります。頻度的には内痔核で悩んでいる患者さんの数が圧倒的に多

症状が強い場合は、痔核の腫れを改善する効果のある薬（肛門内に注入する軟膏など）を使用し経過をみますが、薬での改善が乏しい場合は手術が必要となります。当院ではジオン硬化療法と痔核切除術の二つの方法で手術を行っています。ジオン硬化療法は痔核の適切な部位に適切な量のジオンという薬を注入することにより、痔核を縮小し固めてしまう治療法です。これにより脱出や出血などの症状を改善します。手術と言ってもメスで切除するわけではなく注射のみの治療のため、術後の痛みはほとんどありません。当院では日帰り入院で手術を行っております。ジオン硬化療法は資格を持った医師

のみが施行できる治療であり、高島市内では当院が唯一の治療できる医療機関となっています。

症状が進行し常時脱出する状態になるとジオン硬化療法では治療が必要となります。この場合は、腰椎麻酔（いわゆる下半身麻酔）で手術を行い、1週間前後の入院を要します。切除に伴う痛みは出現しますが、適切に鎮痛剤を使用し術後の苦痛が少なくなるように努めております。

痔核の症状のある方は我慢せず外科外来を受診して頂きたいと思っております。

